

令和6年度
袖ヶ浦市立図書館サービス状況
点検・評価

令和7年8月
袖ヶ浦市立中央図書館

◎令和6年度袖ケ浦市立図書館サービス状況点検・評価について

“図書館はサービス水準の向上を図るため、サービスの実施状況について点検及び評価を行う際の評価指標及び目標年度を令和7年度とする数値目標を設定し、その達成状況等について、年度ごとに点検及び評価を行います。”

（「袖ケ浦市第4次図書館サービス網計画」3－5サービス評価指標 による）

図書館法は、第7条の3及び第7条の4において、図書館が自らの運営状況について評価を行い、その結果に基づき、運営の改善のための必要な措置を講じ、運営状況に関する情報を地域住民等へ積極的に提供するように努めなければならないことを規定しています。

袖ケ浦市立図書館は、平成23年度に袖ケ浦市第3次図書館サービス網計画を策定し、その後、地域住民の代表である図書館協議会の協力を得ながら、図書館サービスの実施状況について年度ごとに点検・評価を行い、公表してきました。

第3次図書館サービス網計画の計画期間は令和2年度で満了し、袖ケ浦市立図書館は、令和3年度を初年度とする袖ケ浦市第4次図書館サービス網計画を新たに策定しました。今回は、前期計画4年目の点検・評価となります。

なお、第4次図書館サービス網計画の計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年ですが、図書館を取り巻く環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間を前期と後期の各5年に分け、サービス評価指標及び参考指標と数値目標については、前期の最終年度である令和7年度を目標年次としています。

◎令和6年度袖ケ浦市立図書館サービス状況点検・評価の評価方法

袖ケ浦市第4次図書館サービス網計画において、数値目標を設定した指標は、サービス内容（1）に対応するサービス評価指標（①～⑪）と、サービス内容（2）（3）に対応する参考指標（⑫～⑳）で構成されています。これらの指標のうち、参考指標については主に活動指標（※1）であることから評価の対象とせず、成果指標（※2）が主である①～⑪のサービス評価指標の達成度に基づいて評価するものとししました。

※1 活動指標：目標を達成するための手段（事業の進め方・やり方）の大きさを表す指標。（アウトプット指標）

※2 成果指標：事務事業を行うことによって対象にどれだけの効果を与えることができたかを表す指標。（アウトカム指標）

1 点検

令和6年度に行った図書館サービスについて、第4次図書館サービス網計画のサービス内容（1）（2）（3）ごとの取組状況シートを作成し、「取組内容」「指標の実績値と達成率」「成果・効果」「課題」「今後の対応」を記載しました。

2 図書館協議会からの意見

地域住民の代表である図書館協議会委員からの意見をサービス内容ごとに伺い、サービス内容（１）（２）（３）のシートに「図書館協議会からの意見」としてまとめました。

3 評価

(1) サービス評価指標①～⑪の目標値に対する達成度を４段階表示しました。

◎：目標値に対して１００％以上の達成率 ○：目標値に対して８０％以上１００％未満の達成率 △：目標値に対して６０％以上８０％未満の達成率 ×：目標値に対して６０％未満の達成率
--

(2) サービス評価指標①～⑪の達成度について、◎を３０点、○を２０点、△を１０点、×を０点として採点し、平均値を全体評価としてＡ・Ｂ・Ｃの３段階で表示しました。

全体評価区分 Ａ：施策の成果が十分に図られている。２４点以上（８０％以上） Ｂ：施策の効果が図られ、一定の成果があった。 １８点以上２４点未満（６０％以上８０％未満） Ｃ：施策の成果が十分に図られているとは言えず改善を要する。 １８点未満（６０％未満）

◎令和6年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価

袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画に定めるサービス評価指標の、令和6年度における達成度は以下のとおりでした。

令和6年度達成度点数合計 260 点 ÷ 項目数 11 = 平均値 23.6 点 ⇒ 全体評価：B

サービス評価指標	R7 目標値	R6 実績値	達成率	達成度	点数
① 市民 1 人当たりの所蔵図書冊数	11.3 冊	11.0 冊	97.3%	○	20 点
② 袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300 冊	332 冊	110.7%	◎	30 点
③ 年間個人貸出利用者数	149,000 人	126,140 人	84.7%	○	20 点
④ 年間個人貸出資料点数	550,000 点	483,937 点	88.0%	○	20 点
⑤ 市民 1 人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5 点	7.3 点	85.9%	○	20 点
⑥ 年間市民新規登録者数	1,400 人	1,137 人	81.2%	○	20 点
⑦ 市民登録率	42%	36.7%	87.4%	○	20 点
⑧ 年間リクエスト処理件数	55,000 件	68,075 件	123.8%	◎	30 点
⑨ 年間レファレンス処理件数	1,200 件	1,217 件	101.4%	◎	30 点
⑩ 1 か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000 件	4,446.3 件	111.2%	◎	30 点
⑪ 来館者満足度	80%	73.6%	92.0%	○	20 点
全 体 評 価			B	合計点	260 点
				平均点	23.6 点

【全体評価】

サービス評価指標 11 項目の達成度点数合計点 260 点を項目数 11 で除算した平均点は、23.6 点となり、全体評価は「B」となります。

【総括】

令和6年度は、サービス評価指標では、全11項目全てで達成率80%以上となり、そのうち達成率100%を超えた項目は②、⑧、⑨、⑩の4つでした。

達成率80%以上100%未満となった7つの項目のうち、①一人当たりの所蔵図書冊数は、令和5年度と同数でした。要因としては、令和6年度は新たに10,661冊を受け入れましたが、図書館システムで使用しているクラウドサーバーの所蔵上限を鑑み、令和5年度に比べて約5,000冊多い10,602冊を除籍したため増減が殆どなかったこと、さらに市の人口もわずかに減ったためと考えられます。

③年間個人貸出利用者数、⑥年間市民新規登録者数の2項目については、令和5年度に比べて年間個人貸出利用者数が約850人と僅かに増加し、年間市民新規登録者数が2人とほぼ同数でした。要因としては、年間個人貸出利用者は照明工事のため10日間の臨時休館を行った令和5年度に比べ開館日数が増加したこと、年間市民新規登録者数については袖ヶ浦高校の新入生に対して学校を通じた利用登録を実施したためと考えられます。今後もより多くの市民が「市民の書斎として、思索の場として、そして市民のふれあいの場として」図書館を利用するように、引き続き資料の充実を図るとともに、資料案内や様々な媒体を活用した利用案内等を通じて、図書館利用への働きかけを行っていきます。

年間個人貸出利用者数の増が見られた一方、④年間個人貸出資料点数、⑤市民1人当たりの年間個人貸出資料点数については、令和5年度に比べて減となりました。年間個人貸出資料点数については16,733冊の減となり、特に児童書の貸出点数は12,338冊の減となりました。要因としては、1人で多くの本を借りる小学生までの子どもの利用が令和5年度に比べて700人ほど減ったことにより、児童書の貸出冊数が大きく減ったと考えられます。また、全体の貸出利用者数が増加したにも関わらず、市民1人当たりの年間個人貸出資料点数が減ったことも子どもの利用が減ったためと考えられます。

今後も限られた予算の中で図書館として必要な資料だけでなく、市民の暮らしがより豊かなものとなることを目指し、課題解決、生涯学習、娯楽など様々な場面での利用を想定した図書館資料の選定、購入を行い、一層の利用拡大及び1人当たりの貸出冊数の増に向けて資料の充実を図ります。

⑦市民登録率については、令和2年度に市人口が令和7年度目標値65,000人を超え、令和7年3月末には65,980人となりました。市民登録率の目標値は市人口の42%で、27,712人の登録が必要でしたが、3,466人不足しており達成率90%を割り込むことになりました。引き続き新たな登録者の増に向けて、来館契機となるようなイベント等の開催や資料及び図書館利用の案内をSNSなど複数の媒体を活用し、より多くの市民に届くように積極的に発信していきます。

⑪来館者満足度については、令和6年8月に実施した「袖ヶ浦市立図書館・電子図書館利用者アンケート」でアンケート項目として設けていたもので、「満足」「やや満足」と回答のあった割合が73.6%でした。アンケートの結果も参考にしながら、満足度の向上に向けて改善等に取り組んでいきたいと考えます。

サービス内容（１）「資料及び情報の収集、提供等」取組状況シート

取組内容

① 図書館資料の収集

【継続】

- ・「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、新刊図書を中心に購入した。
開架書架の更新率、約 3.4%
全館の開架資料 311,535 冊に対して 10,660 冊を受入
（内訳 購入 9,966 冊、寄贈 664 冊（うち郷土資料 458 冊、その他 30 冊））
- ・電子図書館のコンテンツを購入した。購入点数 241 点
- ・電子資料として刊行された行政資料は紙資料として受け入れし、電子資料としても保存した。図書館で製本した袖ヶ浦市関係郷土行政資料 39 タイトル、101 冊。

② 貸出サービス

【新規】

- ・4 月に袖ヶ浦高校新入生に利用申込書を配布し、希望者の新規登録を行った。
袖ヶ浦高校新規登録者数 185 人

【一部新規・拡充】

- ・図書館システム更新にあたり図書館システムと電子図書館の連携を行い、WebOPAC（インターネット上でアクセスできる蔵書目録）を含む図書館システムで紙資料と電子書籍を同時に検索できるようにした。

【継続】

- ・特設コーナーやカウンター前展示を毎月設置し幅広い資料の紹介を行った。
（根形・平岡はミニ特設コーナー）
- ・講座等開催時は関連資料紹介を行った。
- ・特設コーナーのテーマは、SDGs の関連付けも行った。
- ・おすすめ図書の紹介を行った。
広報そでがうら、図書館ホームページ、X（旧 Twitter）
WebOPAC 上の各種おすすめ図書リストを適宜更新した。
「男女共同参画リスト」「若い人に贈る図書館お薦めの 20 冊リスト」を配布した。
- ・貸出促進の取組を実施した
「スタンプラリー」「本のおたのしみ袋」「えほんのふくぶくろ」
「すぐに借りて帰りたい人のためのおすすめ絵本セット」
- ・電子図書館サービスを実施した。
提供コンテンツ数 481 点、のべ貸出冊数 3,016 点
1 か月あたり貸出冊数 251.3 冊、利用人数 83.3 人
- ・電子図書館で、テーマ別のおすすめ電子書籍の紹介を行った。
- ・未所蔵図書を県内公立図書館および大学・県外図書館から借用して提供した。
3,310 冊（うち大学 2 冊、県外 4 冊）

③レファレンス・情報提供サービス

【新規】

- ・図書館システム更新にあたりレファレンスの効率化を目的に図書館システムにレファレンスデータベースを導入し、レファレンスデータの共有化を図った。

【継続】

- ・インターネットやデータベース等も活用し、調べもののサポートを行った。
処理件数1,217件（簡易な本の照会含まない）
- ・パスファインダー（調べ方案内）を作成し、図書館のホームページに掲載した。
大人向け2種、児童向け1種
- ・国立国会図書館、大学図書館へ文献複写を依頼した。（国会9件、大学2件）
- ・市役所職員に向け毎月、袖ヶ浦市関連の新聞記事見出し一覧の公開と、サービスの周知を行った。市役所からの依頼件数（4件）

サービス評価指標	前期計画 目標値 (R7)	R6 実績値	達成度
①市民一人当たりの所蔵図書冊数	11.3 冊	11.0 冊	○
②袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300 冊	332 冊	◎
③年間個人貸出利用者数	149,000 人	126,140 人	○
④年間個人貸出資料点数	550,000 点	483,937 点	○
⑤市民1人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5 点	7.3 点	○
⑥年間市民新規登録者数	1,400 人	1,137 人	○
⑦市民登録率	42%	36.7%	○
⑧年間リクエスト処理件数	55,000 件	68,075 件	◎
⑨年間レファレンス処理件数	1,200 件	1,217 件	◎
⑩1か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000 件	4446.3 件	◎
⑪来館者満足度	80%	73.6%	○

成果・効果

- ・広報そでがうらのおすすめ図書に掲載した図書に、掲載後予約が多数入った。
- ・適切な資料選定に努め、積極的にPRを行ったことで電子図書館の利用が増えた。

課題

- ・これまで受入冊数の約半数の除籍を行う方針を取ってきたが、書庫スペース等の限りもあり、このまま蔵書冊数を増加させ続けることは難しい。蔵書冊数を抑制する必要がある。
- ・新図書館システムと電子図書館を連携させるため、電子図書館の利用方法が従来と変更になる部分があり、改めて利用方法の周知を図る必要がある。
- ・年間個人貸出利用者数は前年度比で約1,000人増加しているが、年間個人貸出資料点数は約17,000冊減少しており、一人当たりの貸出資料点数を増加させる必要がある。

今後の対応

- ・ 今後は受入冊数と同程度の除籍を行うように努める。
- ・ 令和 7 年度に電子図書館利用講座を開催する。
- ・ 蔵書構成のバランスを取りながらも、社会情勢等も踏まえた市民の興味や関心を引く資料の選定に努め、利用につながる資料の充実を図る。

図書館協議会の意見

- ・ 今後は除籍も進めるということですが、蔵書数という財産が問題ではないという事をいろいろな人によく理解してもらう必要があると思います。
- ・ ホームページで公開しているパスファインダーでは、全ての資料で WebOPAC の予約ページとリンクさせているので、本が探しやすくなっています。そのことをまずアピールしていかないといけないと思います。

サービス内容（２）「利用者に応じたサービス」取組状況シート

参考指標

取組内容

① 乳幼児と保護者に対するサービス

【一部新規・拡充】

- ・「すきすき絵本タイム」（根形）の開催頻度を隔月開催に拡大した。
- ・ニーズに応え「おひざにだっこのおはなし会」の開催回数を１回増やした。

【継続】

- ・「ブックスタート」を毎月実施した。
- ・毎月初めに、子ども向けイベントの案内を市公式LINEで実施した。
- ・「おひざにだっこのおはなし会」「えほんのひろば」を定期的開催した。
- ・対象年齢別おすすめ図書リストの発行と図書館ホームページへの掲載を行った。
- ・児童室で季節や事物など様々なテーマで本を展示して資料紹介を行った。
- ・夏と秋のトショロフェアでは、幼児が参加できる催しを企画、実施した。

② 児童・青少年に対するサービス

【新規】

- ・４月に袖ヶ浦高校新入生に利用申込書を配布し、希望者の新規登録を行った。
袖ヶ浦高校新規登録者数 185 人（再掲）

【継続】

- ・館内おはなし会の定期開催および、保育所・小学校等へ出張おはなし会を実施した。おはなし会等実施回数合計 501 回
- ・小学校中学年以上の子どもが参加しやすいように、対象年齢を通常開催のおはなし会より上げたおはなし会を、夏のトショロフェアで実施した
- ・パスファインダーの作成と配布を行った。
- ・年齢別や読書感想文おすすめ図書リストの作成と配布を行った。
- ・各館の児童室では、テーマを決めた資料の紹介展示を定期的に行った。
- ・こどもの読書週間記念行事でスタンプラリーを実施した。
- ・中・高校生向けに「イチオシ本のPOPを書こう！」を実施した。
参加校数合計 7 校（小学校 2 校、中学校 4 校、高校 1 校）
- ・団体貸出を行った。利用団体数 12 団体（新規 2 団体 うち学童 1 団体）

③ 成人に対するサービス

【継続】

- ・特設コーナー、WebOPAC のおすすめ図書、講座関連資料等の資料紹介を行った。
- ・関心が高い「相続」をテーマにした成人向け講座を実施した。
- ・文芸講座を実施し、希望者と講師の懇談会も行った。

④ 高齢者に対するサービス

【継続】

- ・介護予防、健康づくり、セカンドライフの充実に資する資料を積極的に購入した。
- ・大活字本 100 冊（39 タイトル）、朗読CD 6 点（6 タイトル）を購入した。

- ・名画鑑賞会を図書館 3 館で実施した。
- ・団体貸出を行った。利用団体数 12 団体（新規 2 団体 うち高齢者施設 1 団体）

⑤ 図書館利用に障がいのある人に対するサービス

【継続】

- ・病気等により図書館への来館が困難な市民に対し宅配サービスを実施した。
宅配による貸出 199 点。
- ・宅配サービスの要件に該当しない来館困難者を対象に、要件を緩和した利用要件を試行実施した。（令和 7 年度末まで） 新規利用者 1 名
- ・小中学校の教員向けに不読書支援サービスでデジター図書（※）の利用を案内する『読書支援サービス通信』を作成・配布した。1 回

⑥ 多文化サービス

【継続】

- ・外国語資料を活用した取組として、「英語でおはなし会！」を開催した。
- ・多文化理解の取組として「英語でおはなし会！」の会場に外国を紹介する本を展示した。
- ・外国語図書コーナーのない長浦・平川図書館、根形図書室で外国語と日本語訳の絵本を並べて紹介展示した。
- ・外国語（英語）の図書を受け入れた。児童書 14 冊（うち購入 7 冊、寄贈 7 冊）
- ・新たな多言語電子絵本を受け入れた。2 作品

参 考 指 標	前期計画 目標値 (R7)	R6 実績値	達成度
⑫ブックスタートの年間配布率	80%	69%	○
⑬こどもの読書週間記念行事の参加者数	900 人	972 人	◎
⑭おはなし会の年間実施回数	480 回	501 回	◎
⑮子ども向けお薦め本リストの年間発行回数	6 回	7 回	◎
⑯成人向けお薦め本コーナーの年間企画数	12 件	49 件	◎
⑰大活字本の年間貸出冊数	4,000 冊	4,290 冊	◎
⑱宅配による年間貸出資料点数	330 点	199 点	△

成果・効果

- ・「すきすき絵本タイム」で読み聞かせに反応する子どもの様子を見て、その場で保護者が子どもの利用登録を行い、本の貸出や家庭での読み聞かせにつながった。
- ・これまで「イチオシ本の P O P を書こう！」は学校単位での参加のみだったが、はじめて個人での参加者がいた。
- ・成人向け講座の開催時期を 10 月から 12 月に変更したところ、関心が高い講座テーマだったことも相まって早々に定員がいっぱいになった。
- ・名画鑑賞会で「PLAN75」という 78 歳以上が自ら生死を選択できる近未来の日本という設定の映画を上映したところ、地味な作品だったが幅広い年齢から定員を超える参加があり、図書館で映画会を行う意義があった。

・「読書支援サービス」について、3件の問い合わせがあった。利用には結びつかなかったが、サービスの周知が進んでいると考えられる。
課題
・ブックスタート対象者で4か月児教室不参加かつ図書館に来館しない場合、ブックスタートパックを渡すことができないため、対策の検討が必要である。 ・「おひざにだっこのおはなし会」や「えほんのひろば」は多数の申込みがあるが、4歳～小学生を対象にした「おはなし会」は申込みが少ない。また、予約制だと参加しにくいとの意見があった。参加状況に応じた実施及び受付方法の見直しを行う必要がある。 ・読み上げ機能または音声付き電子書籍の普及などにより、新規に発売される朗読CDタイトルが減っていることから朗読CDの購入点数も減少した。発売タイトル数の減が予想されることから、今後の朗読CDの収集について対応の検討を始める必要がある。
今後の対応
・4か月児教室不参加かつ図書館に来館しないブックスタート対象者へのブックスタートパックを渡す方法について、検討を始める。 ・「おはなし会」は対象者の多くが「出張おはなし会」で絵本や素話を楽しむ機会を得ていることから実施回数を減らし、参加申し込みが多くニーズが高い「えほんのひろば」の実施回数を増やす。 ・「おはなし会」と「えほんのひろば」について、当日の予定次第で参加しやすいように予約制を廃止する。 ・朗読CDについては発売状況を注視しながら、今後の収集方針を検討するための情報収集等を行っていく。
図書館協議会の意見
・「おはなし会」の参加者が多くないとの事ですが、行けるときに行くという方は一定数いると思うので、頻度を減らしても継続して実施してほしい。 ・乳幼児期が親子で図書に親しむチャンスだと思うので、「えほんのひろば」や「おひざにだっこのおはなし会」の実施回数を増やしていくことは良いことだと思います。 ・宅配サービスは病気等により来館が困難な場合とありますが、切迫流産などで安静を強いられることもあります。そのような場合でも、家族に借りに来てもらうことを頼めない方は、相談に応じてサービスを受けられるようにしていただけるとありがたいです。

※ **デージー図書**：デージー(DAISY)はDigital Accessible Information Systemの略。視覚障がいなどにより活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格

サービス内容（３）「多様な学習機会の提供」取組状況シート

参考指標

取組内容

① 学校との連携

【継続】

- ・図書流通システムでの資料貸出を行った。
貸出冊数 5,267 冊（うち閉架（団体）貸出 5,258 冊、開架 99 冊）
- ・学校貸出利用券での開架資料の貸出や、袖ヶ浦高校への団体貸出を行った。
開架資料貸出冊数 544 冊、袖ヶ浦高校貸出冊数 121 冊
- ・小中学校と連携して、授業成果物やおすすめ図書、部活動作品の展示を行った。
- ・袖ヶ浦高校図書委員による「袖高とコラボ！親子いっしょのおはなし会」を行った。
- ・小学校のまち探検と中学生の職場体験、高校・短大生のインターンシップ等の受け入れを行った。小学校 4 校、中学校 2 校、高校 1 校、短大 1 校

② 関係機関との連携

【新規】

- ・社会福祉協議会の参加支援事業協力で、展示ボランティアに 1 名受け入れた。

【継続】

- ・公民館事業の乳幼児家庭教育学級で図書館職員が講師となって講座を行った。
- ・根形・平岡公民館講座の関連図書を提供・展示した。根形 2 講座、平岡 5 講座
- ・郷土博物館企画展に関連した資料展示を中央図書館で行った。
- ・市役所からの問い合わせに応じて、業務に必要な資料や情報を調査し提供した。
問い合わせ件数 4 件
- ・作成した図書リストとパスファインダーの関係課等への配布を行った。

③ ボランティア活動等の推進

【一部新規】

- ・おはなし会ボランティア養成講座初級編（全 6 回）を開催し、20 名が参加した。
終了後 17 名が新たに絵本の読み聞かせボランティアの登録を希望した。

【継続】

- ・ボランティアとの協働により読書普及事業を実施した。
（おはなし会・ブックスタート・すきすき絵本タイム・映画会・資料展示・工作）
- ・社会教育推進員との協働により、読書普及事業の充実を図った。
- ・読書の秋トショロフェアで図書館登録サークルによる成果発表を実施した。

④ 図書館からの情報発信

【一部新規・拡充】

- ・図書館システム更新に伴い、図書館ホームページのリニューアルを行った。

【継続】

- ・各種媒体を使い、資料情報やイベント情報などの広報活動を活発に行った。
（広報そでがうら、市公式LINE、図書館のホームページ、X（旧ツイッター）

やメールマガジン、図書館だより、市政情報モニター、民間情報サイト等) ・長浦おかのうえ図書館の子ども向けイベントや本を紹介する『おかのうえ通信』を発行し、近隣3自治会に配布した。2回配布			
参 考 指 標	前期計画 目標値(R7)	R6 実績値	達成度
⑱学校図書館への年間貸出図書冊数	3,500 冊	5,267 冊	◎
⑳学校との連携による図書館内掲示や催し物の年間事業数	7 回	7 回	◎
㉑公民館・博物館等関係機関と連携した年間事業数	7 件	16 件	◎
㉒図書館ボランティア研修会等の年間実施回数	25 回	30 回	◎
成果・効果			
・郷土博物館との連携では、企画展開催前に関連の展示品を借用して展示することで、郷土博物館の企画展の来館につながるような展示ができた。 ・図書館ボランティアや社会教育推進員との協働により、読書普及事業への意見やアイデアをいただくことでより充実した事業を行なうことができた。 ・様々な媒体を使って図書館の情報を広く知らせることで、イベントへの新たな参加や資料の貸出などにつながった。			
課題			
・資料の貸出以外の学校との連携について図書館から働きかけを行うものの、学校によって取り組みへの温度差があるが、全ての学校と連携できるように働きかけなどを行う必要がある。			
今後の対応			
・展示などの学校との連携について、依頼文の送付等に加え電話などで直接声掛けをするなど積極的にPRをする。			
図書館協議会の意見			
・庁内からどのような問い合わせがあり、どのようなことまで回答可能なのかという事が、庁内の中にも周知できれば良いと思います。 ・袖ヶ浦高校生による絵本の読み聞かせについては、保護者の立場として、子どもより少し先を歩いている高校生を、自分の子どものロールモデルとして見ることができる良い場だと思っています。			